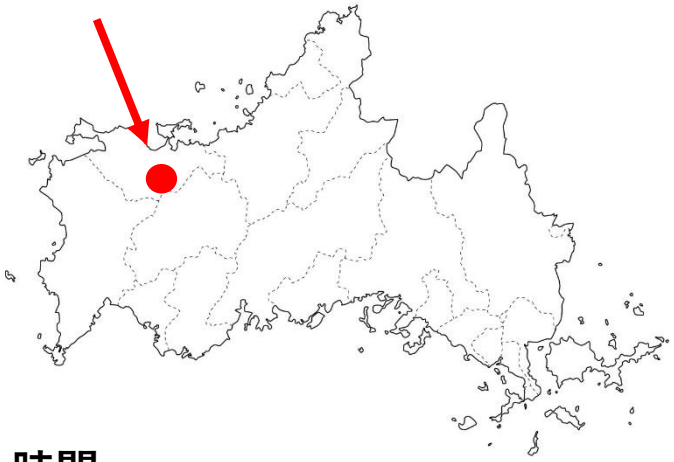
長門湯本温泉　温泉街リノベーション

長門湯本温泉まち㈱　木村隼斗

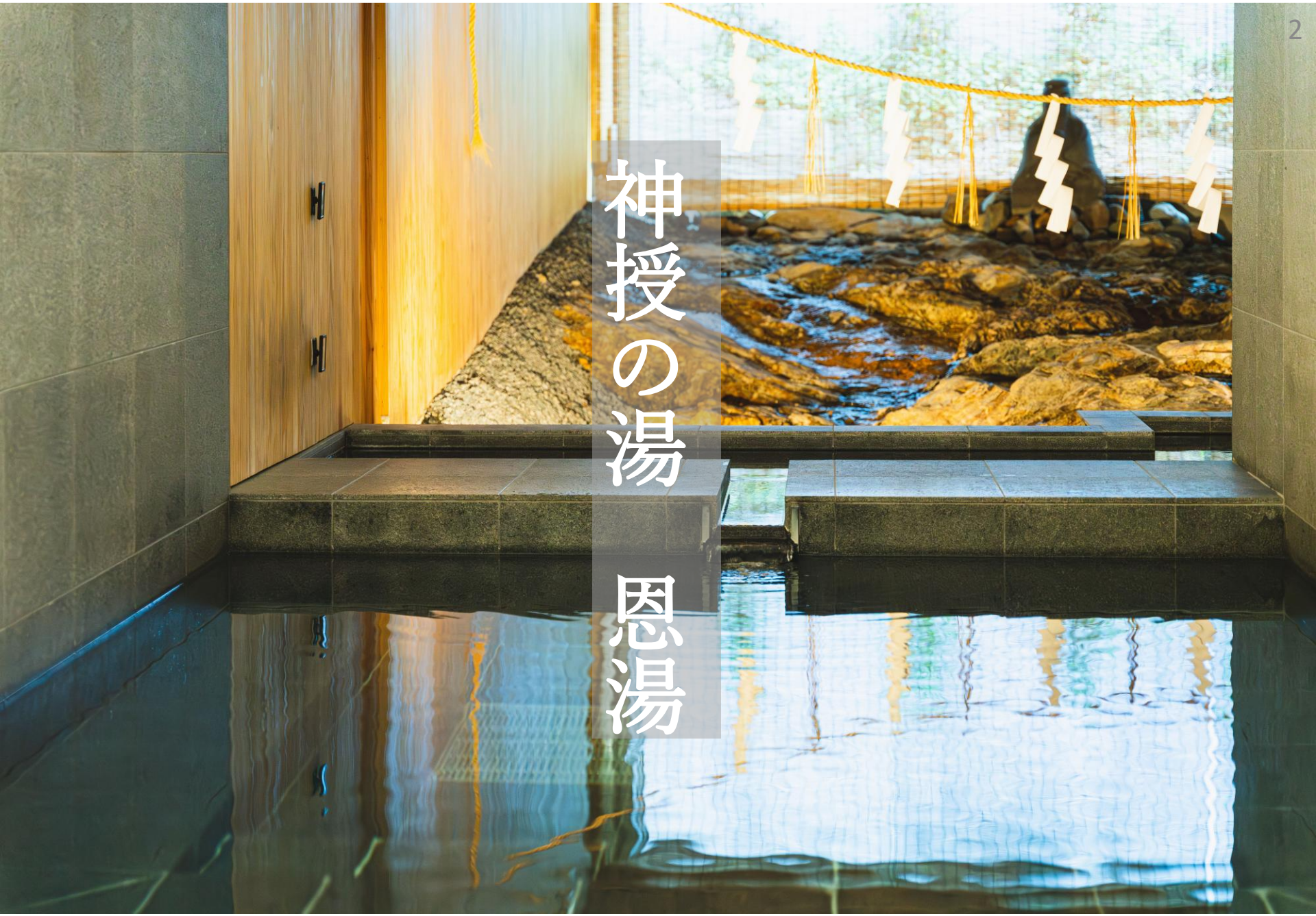
AREA

山口県長門市深川湯本「長門湯本温泉」

長門湯本温泉
NAGATO YUMOTO ONSEN



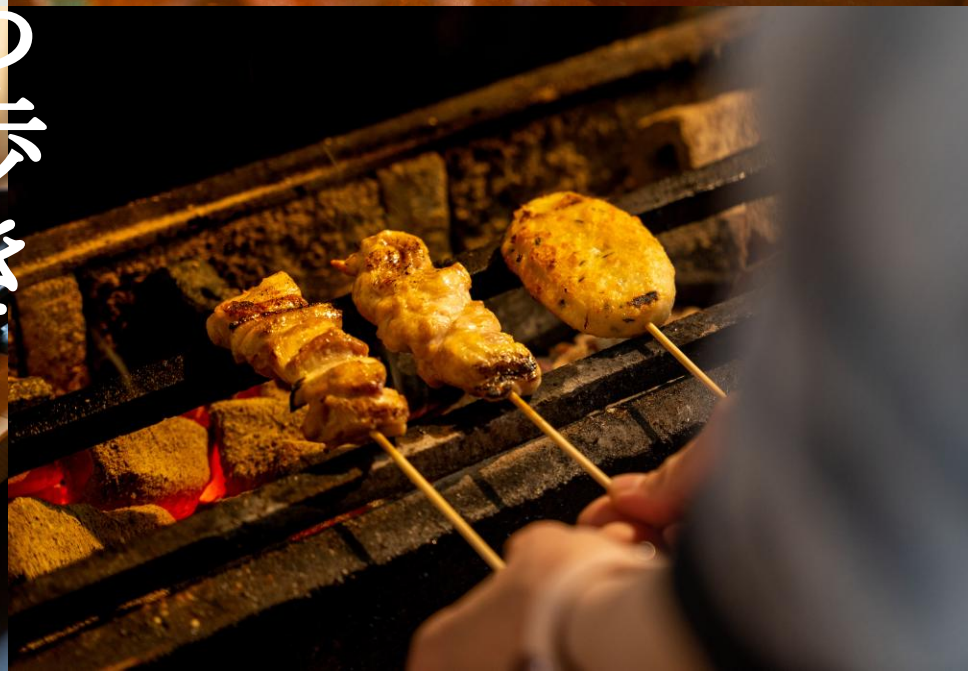
- 新山口駅から車で１時間
- 山口宇部空港から車で１時間
- 福岡博多から車で２時間



神授の湯　恩湯

川床テラス

そぞろ歩き



幻燈のまち

（自己紹介）　木村 隼斗（よしと）

2007年　　経済産業省入省

主な業務）
- 原子力被災者支援
- 自動車産業・取引適正化
- 3Dプリンタ
- 情報政策（5G・サイバーセキュリティ）

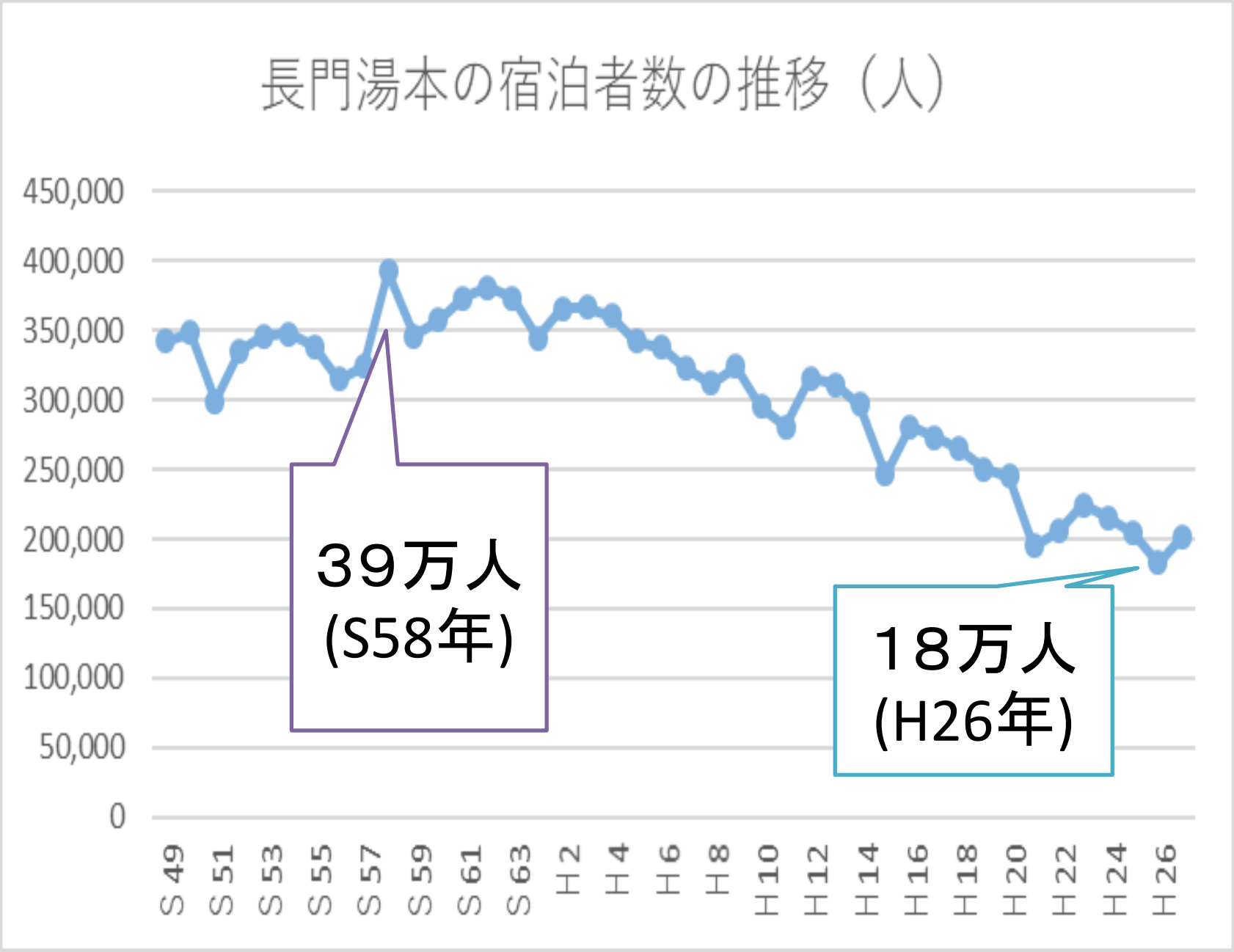
2015年　　地方創生人材支援制度により長門市へ
- 2015～16年　経済観光部理事
- 2017年～　　経済観光部長

主な業務）
- まちひとしごと総合戦略の企画立案
- 地域商社（ながと物産合同会社）立上げ
- 林業振興（長門おもちゃ美術館）
- 地元高校生の仕事支援（NPO法人つなぐ）
- 長門湯本温泉観光まちづくり事業

2019年12月　経済産業省を退職

2020年4月～　長門湯本温泉まち株式会社　エリアマネージャー
有限会社ハートビートプラン

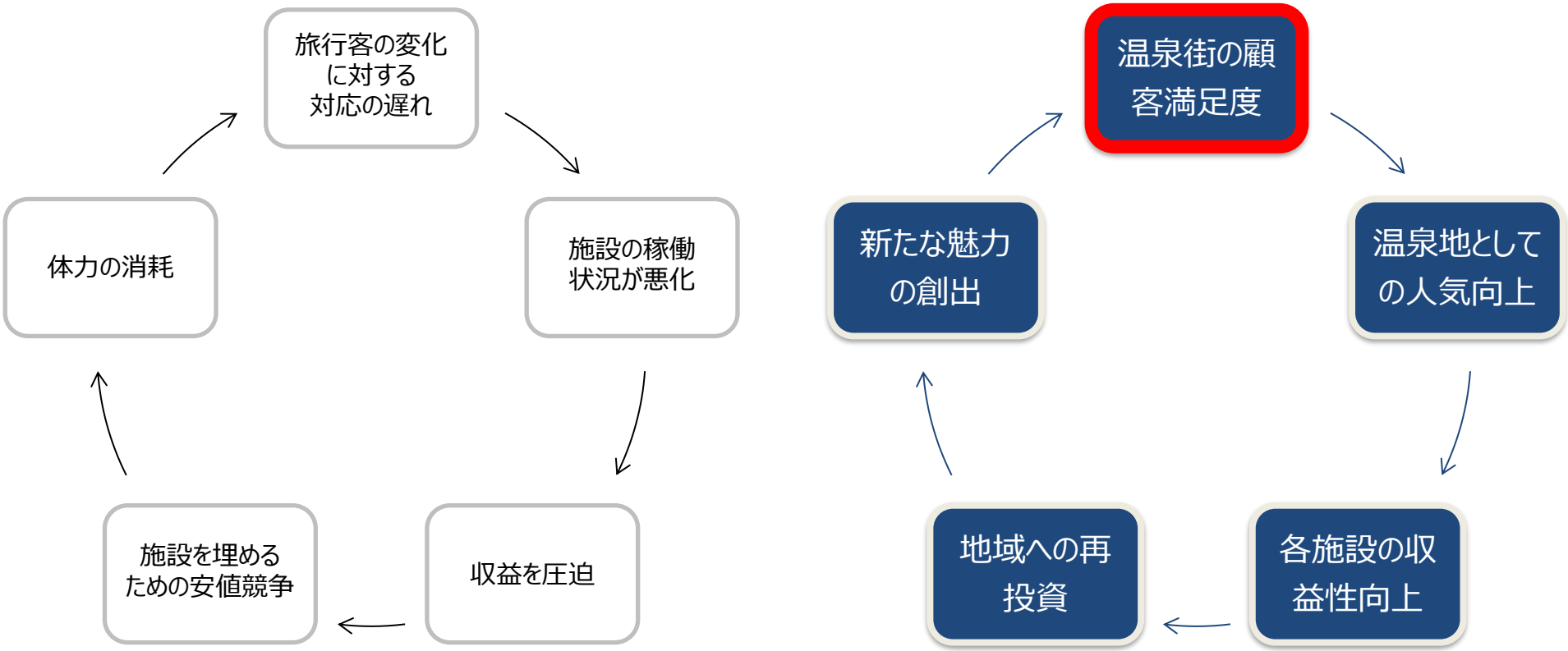
この場所を子どもたちに残せるのだろうか


長門湯本の宿泊者数の推移（人）
450,000
400,000
350,000
300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
S49
S51
S53
S55
S57
S59
S61
S63
H2
H4
H6
H8
H10
H12
H14
H16
H18
H20
H22
H24
H26
39万人
(S58年)
18万人
(H26年)

2014年1月
150年の歴史を有する老舗ホテルの廃業

解体事業;マイナスからゼロへの投資

正のサイクルを生み出す／敷地単位からエリア単位へ



困難なサイクル

「共有財」である温泉街を
高めることで変えていく

正のサイクル

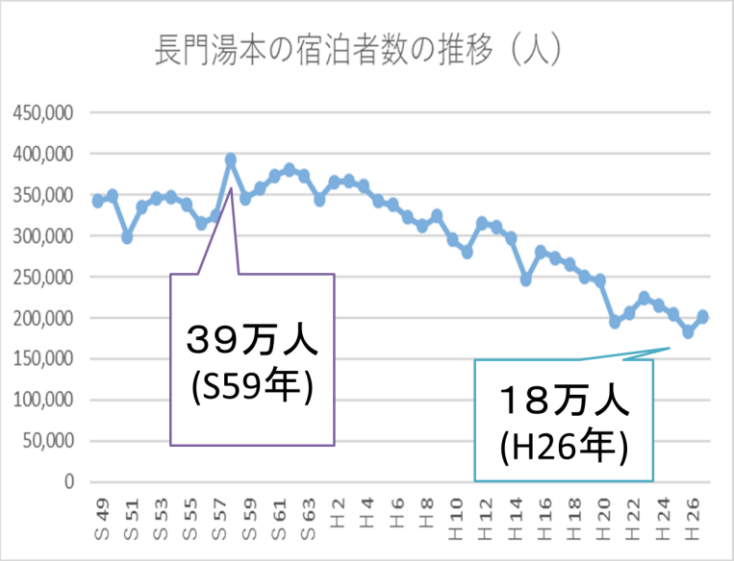
将来ビジョンとしてのマスタープラン

2016年の温泉街

２０２０年の温泉街

プロジェクト前後での変化【ランドスケープ】

2016年



- 宿泊者数はピーク時から半減
- 150年の歴史を有する老舗旅館の廃業
- 団体依存で閑散とした温泉街に

2020年～

- 地域の**シンボル外湯を再建**
- まちの**中心部の駐車場を高台に移転し、誰もが親しめる広場に**。
- **道路・河川・夜間景観等を同時に一新**し、自然豊かでそぞろ歩きの楽しい温泉街へ

プロジェクト前後での変化【道路・河川一体での再編】

2016年

- ずらりと並ぶ路上駐車
- 広い道路に通過交通
- 歩行者空間はほぼゼロ

- 蛍も舞う豊かな自然環境
- 遊歩道は整備されているものの、誰も歩かない河川空間

2020年～

- **路上駐車はほぼゼロ。**
- **ゆっくり走る**道。ベンチやプランターによる人のための空間へ
  河川を楽しみながらのんびりできる仕掛けと**子どもの手を放しても安心してそぞろ歩き**ができる環境

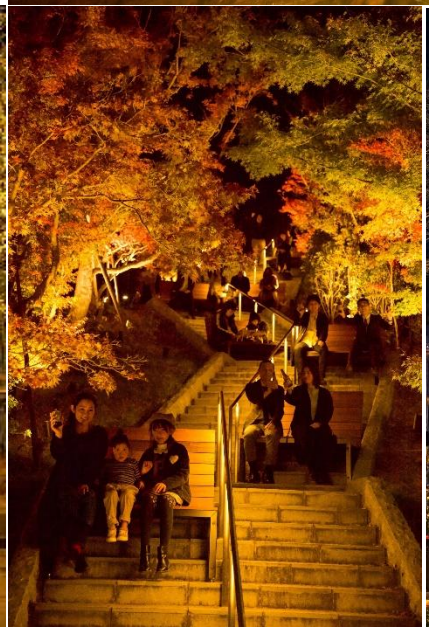
- 清らかな河川が、**長門湯本を象徴する景観**であり、**子どもも大人も楽しめる遊び場**に

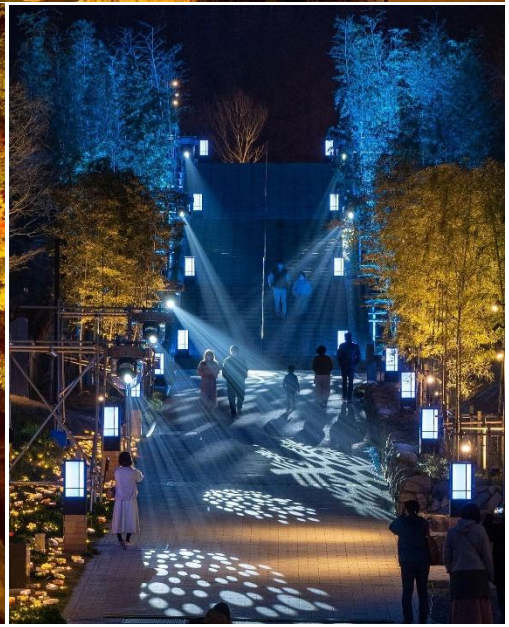
プロジェクト前後での変化【夜間景観】

2016年

- 真っ暗な環境にネオンのみ浮かび上がる

2020年～





□ **<u>自然（河川や樹木等）を生かした温かみのある灯り。</u>**温泉街全体での**<u>トータルデザイン・全体プログラム制御</u>**

プロジェクト前後での変化【恩湯】

2016年

2020年～

２０２０年以降の温泉街リノベーション

- パイロットプロジェクトとなったcafe&pottery音の開業(2017年)に始まり、20年新規店舗の無かった温泉街に**17軒の新規事業**が開業

崩壊しかけていた建物を飲食＆シェアキッチンに

シェアサイクル事業がスタート

クラフトビール醸造所＆タップルーム

長門湯本温泉のオリジナル土産も企画販売

大阪の有名バーテンダーがBAR開業

川沿いのレンタルスペース＆カフェ

地元飲食店オーナーの娘さんが開業

地域住民へのシェアハウスお披露目イベント

地域のメンバーによる初めての事業プロジェクトをセルフリノベーションで実現
周辺環境が整うのを待たず、若手自身で新たな場を生み出す

住民も倉庫を改造して起業

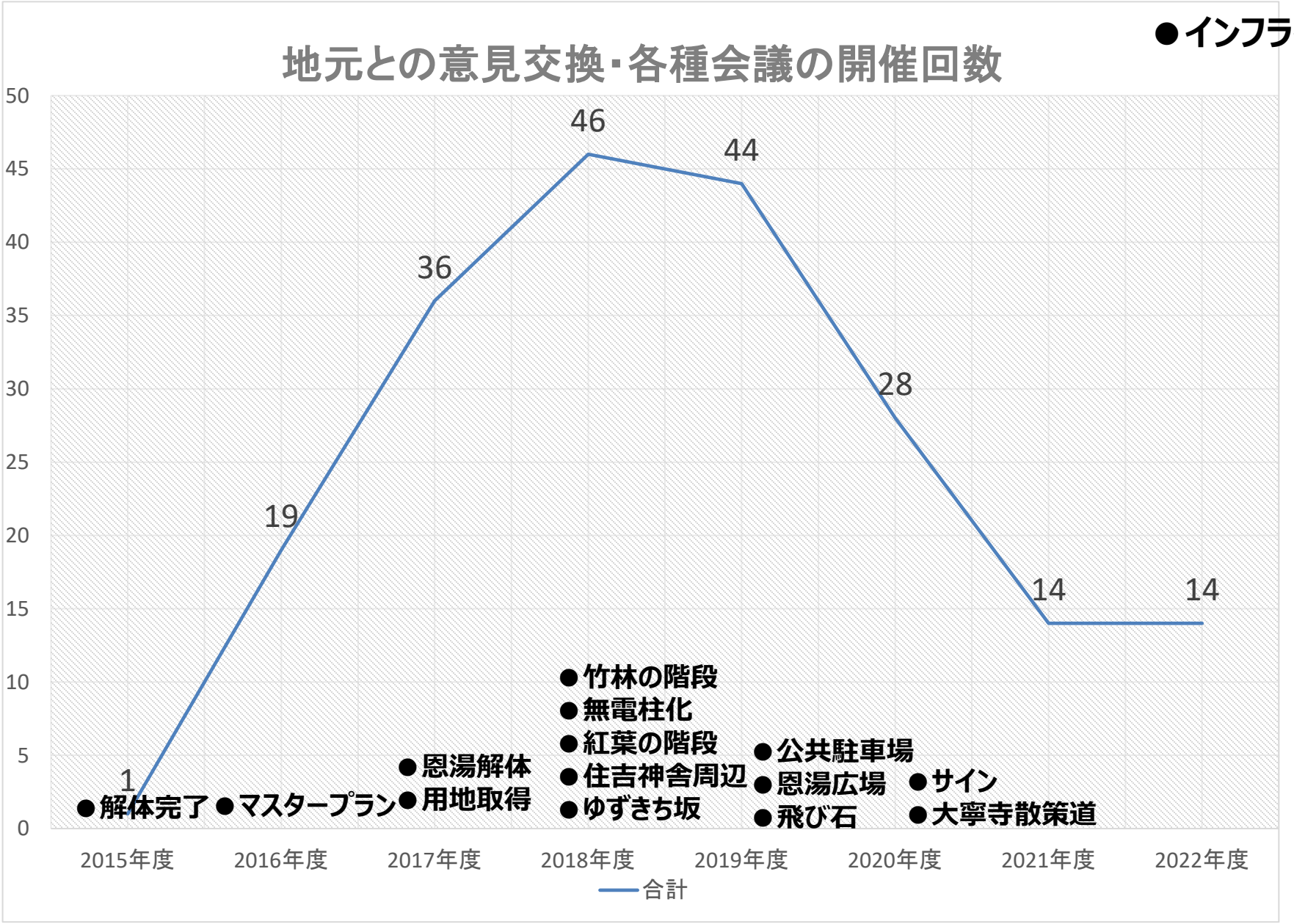
複数の案件の工事に学生が参画

星野リゾート
プロジェクト組成　×　観光まちづくり

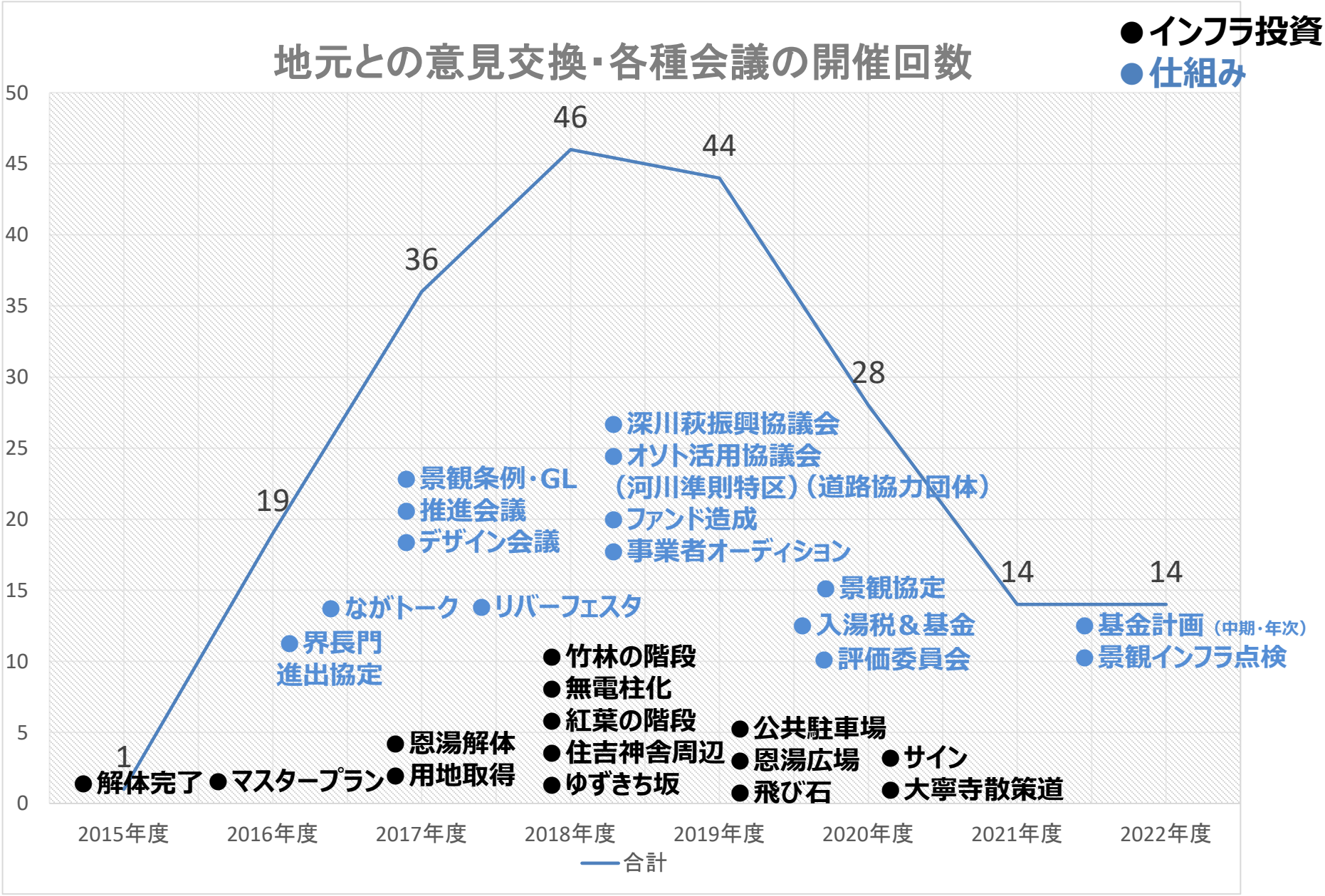
ワークショップ・社会実験	85回
専門家会議	55回
推進会議（意思決定会議）	10回

※2020年度までの合計

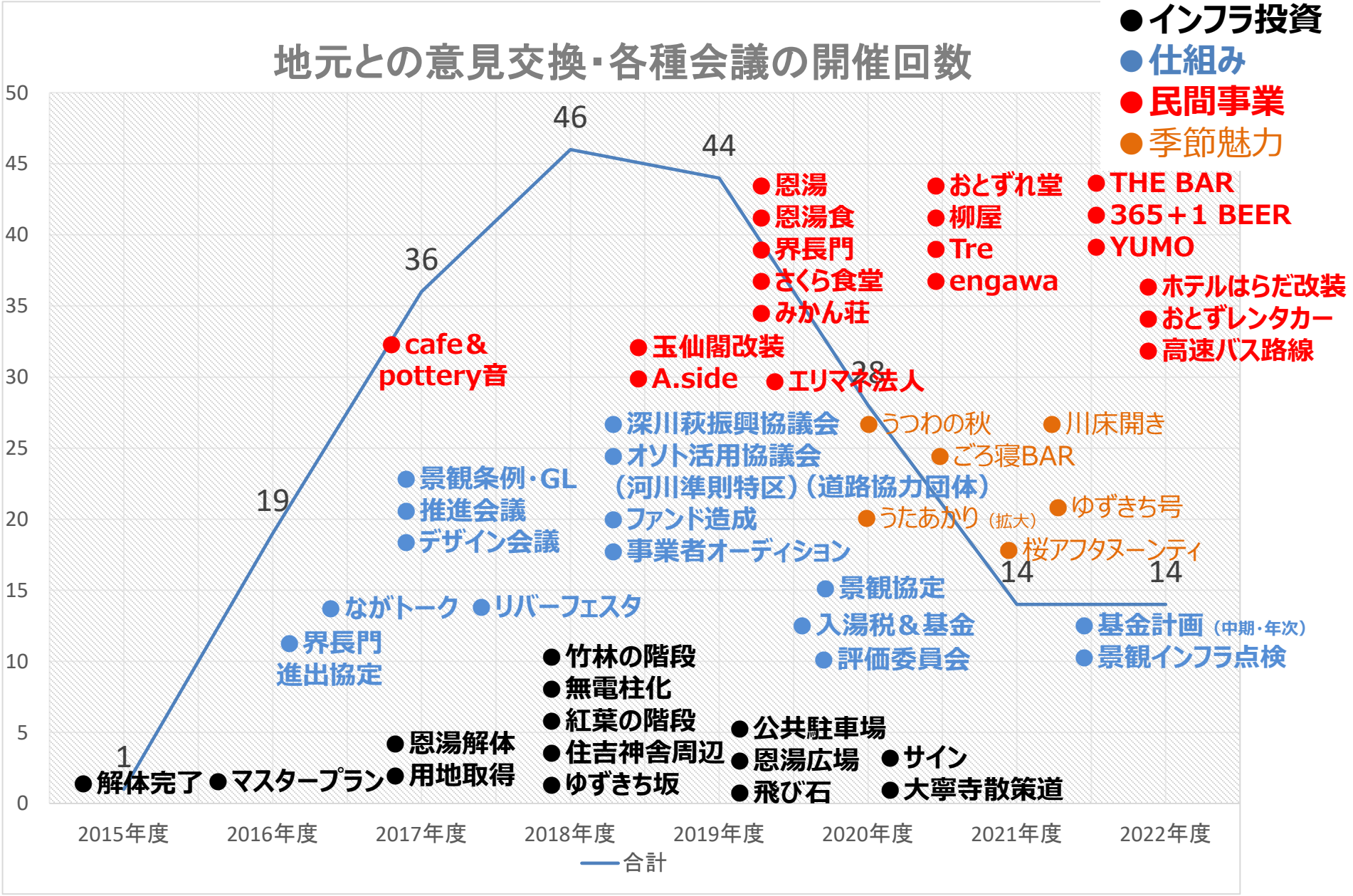
プロジェクトの推移【インフラ投資】



プロジェクトの推移【インフラ投資　＋　仕組み】

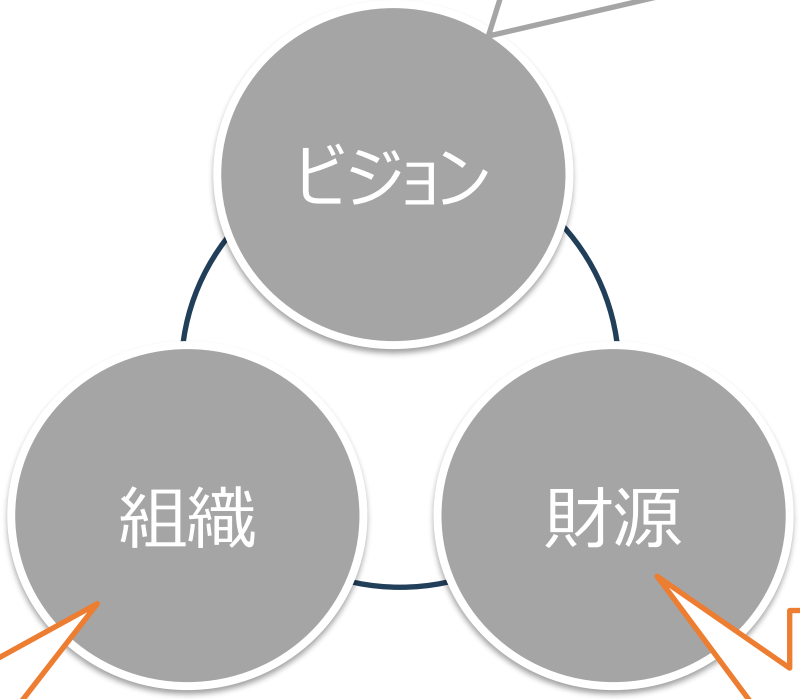


プロジェクトの推移【インフラ投資　＋　仕組み　＋　民間事業】



ビジョン、組織、財源を一体で。2020年以降は観光地経営のフェーズに

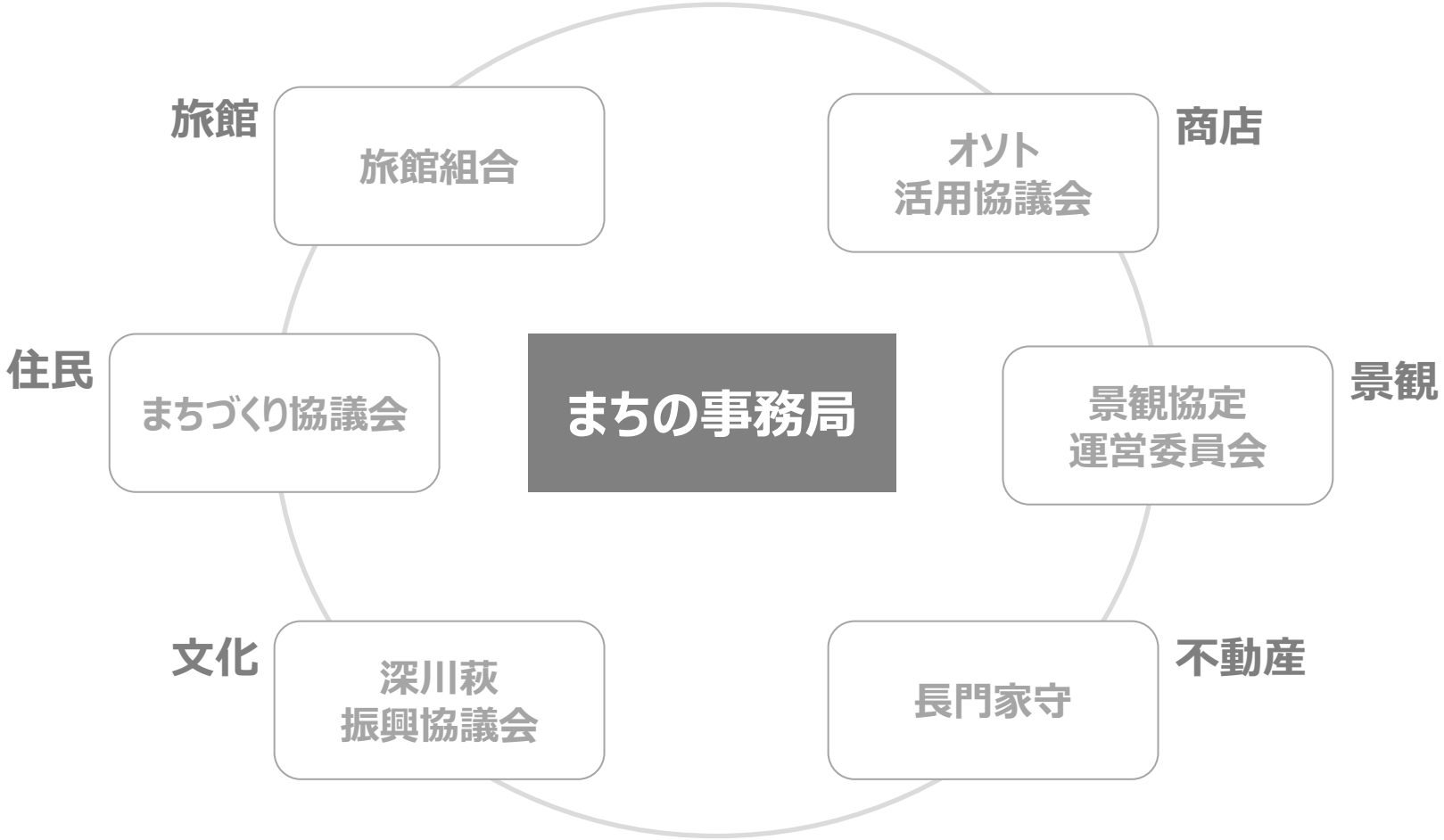
2016年
長門湯本温泉観光まちづくり計画



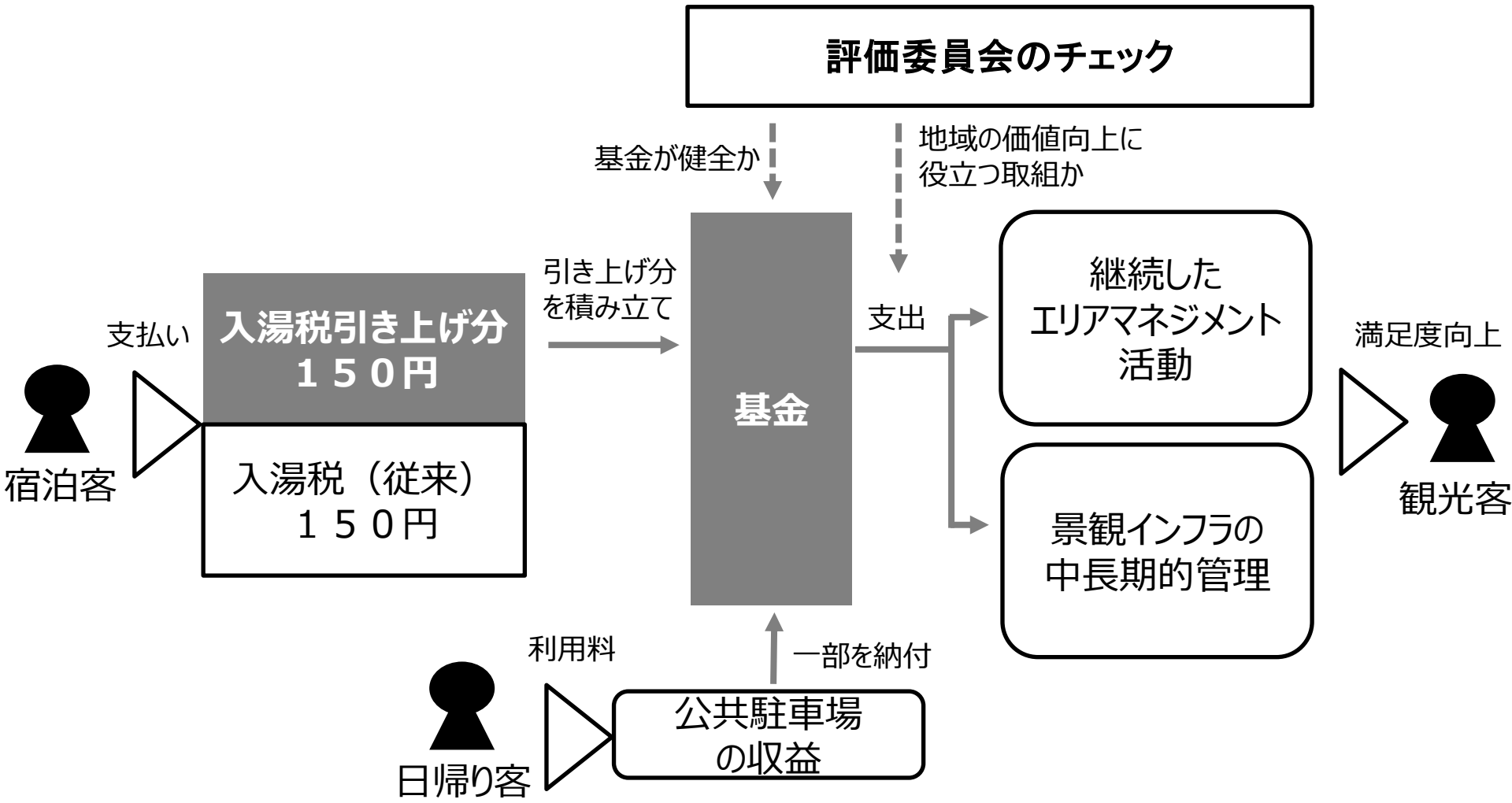
2020年
長門湯本温泉まち
株式会社の設立

2020年
入湯税の見直し

長門湯本温泉まち株式の役割は「挑戦的事務局」

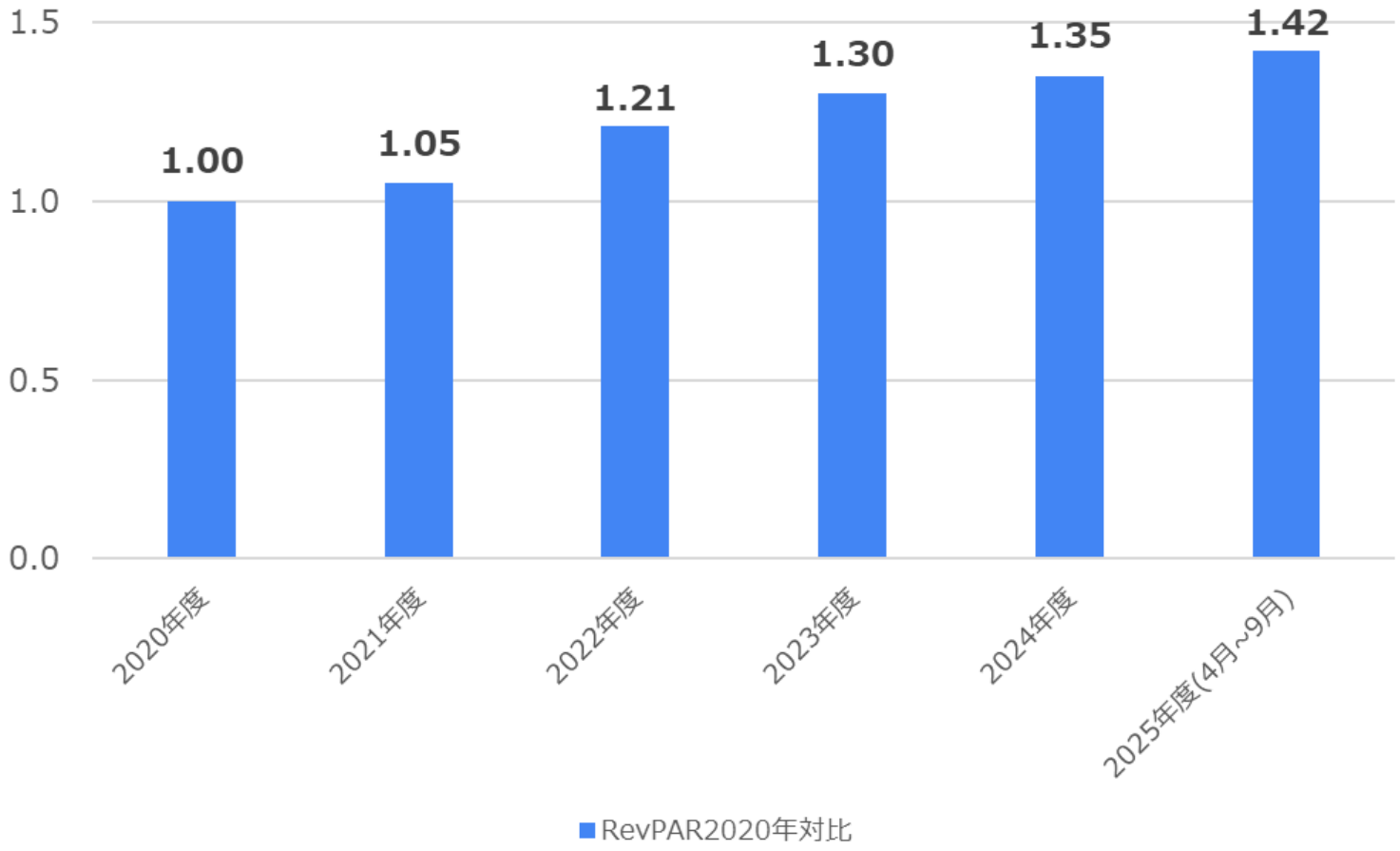


まちづくりに不可欠な「安定財源」として入湯税を活用



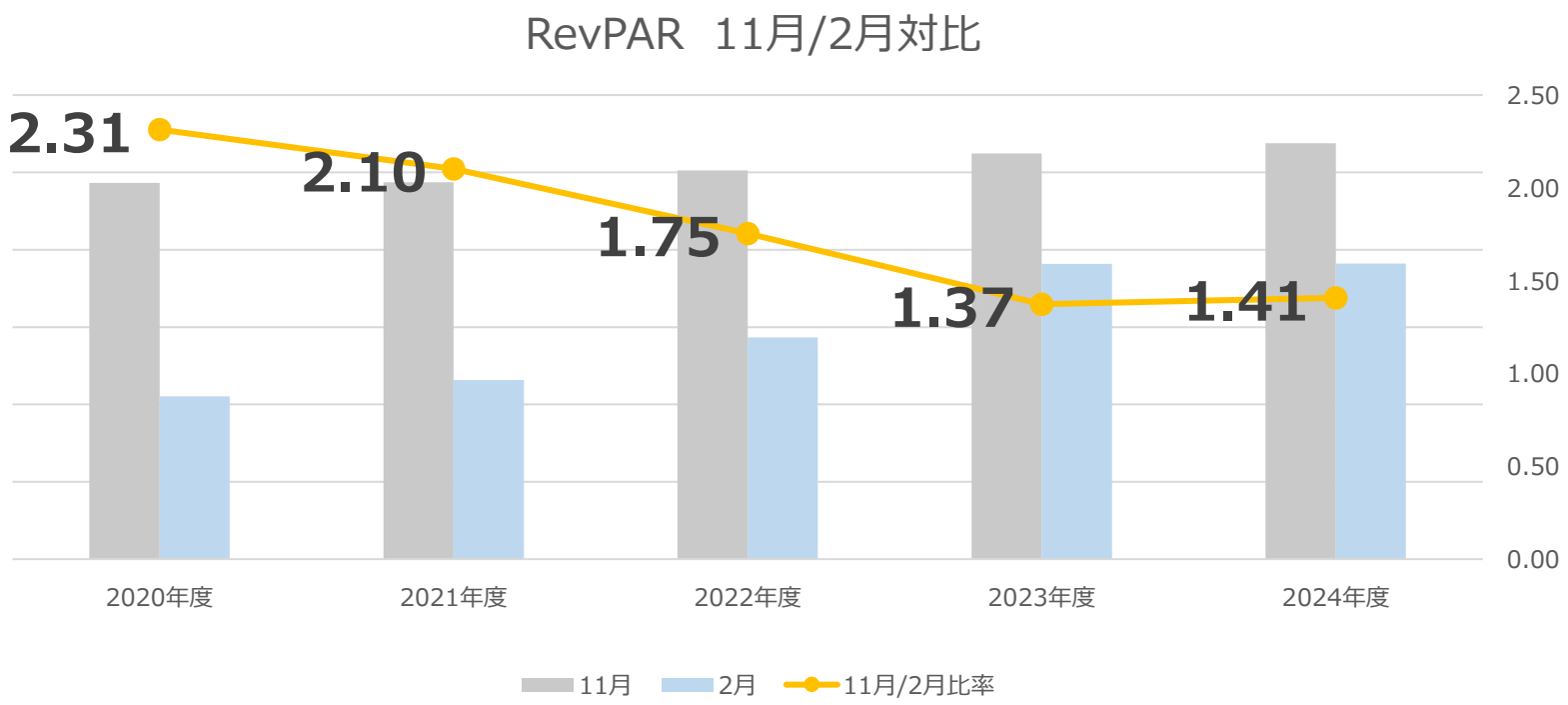
長門湯本温泉全体RevPAR推移

2020年度対比（2021年度～2025年度*）　*25年度は4月～9月



長門湯本温泉全体RevPAR推移（平準化動向）

2020年度～2024年度　11月/2月RevPAR対比



※2月と11月のRevPARの比率は減少傾向(小さいほど良い)。

- **閑散期との格差は小さくなっており、閑散期の需要を高める形で平準化を進められている。**

戦略的かつ長期的な観光地経営を評価する仕組み「評価委員会」

【評価委員会の役割】

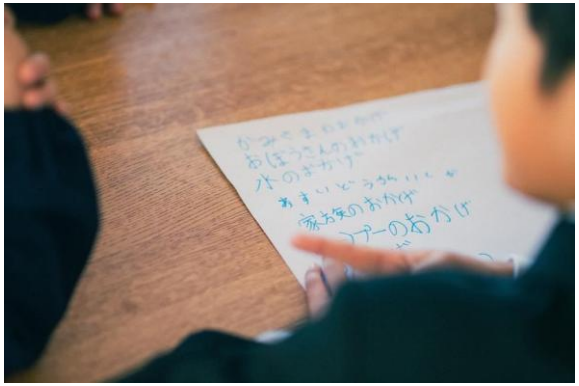
- 入湯税が、観光客の満足度観光地としての魅力や持続可能性の向上に資する形で活用されているか、専門的かつ外部からの視点で評価する
- 評価の対象はエリアマネジメント活動はもちろん、長門市の観光まちづくりの取組も含め官民フラットに議論する
- インフラ更新（アップグレード分）の原資となる基金運用に対し、短期的でなく中長期的な視点で検討する
  ※条例において、市や基金活用に際、「意見を聴かなければならない」ことと規定されている
- 公開で議論を進め、エリアマネジメント活動及び評価についての高い透明性を確保する

1	國學院大学	梅川　智也	学識経験者
2	㈱ディスカバージャパン	高橋　俊宏	メディア
3	熊本大学大学院	田中　智之	建築・空間デザイン
4	㈱WAKUWAKUやまのうち	中尾　大介	まちづくり・金融
5	旅ジャーナリスト	のかたあきこ	ジャーナリスト
6	㈱ロフトワーク	林　千晶	コミュニティデザイン
7	星野リゾート	星野　佳路	観光業

新たな恩湯は、住吉神温泉発見縁起譚の大寧寺ストーリーを軸に、「地域に根ざした本物の温泉体験」というコンセプトを打ち出し、自然湧出泉と足元湧出泉の２源泉の限りある湧出量に合わせた浴槽面積とし、顕になった岩盤には温泉縁起譚にちなみ、住吉神社長門国一宮より授けられたしめ縄が結界として張られ、地域固有の外湯として生まれ変わった。

生活文化の醸成に向けて 【地元小学校との連携　子ども湯道教室】

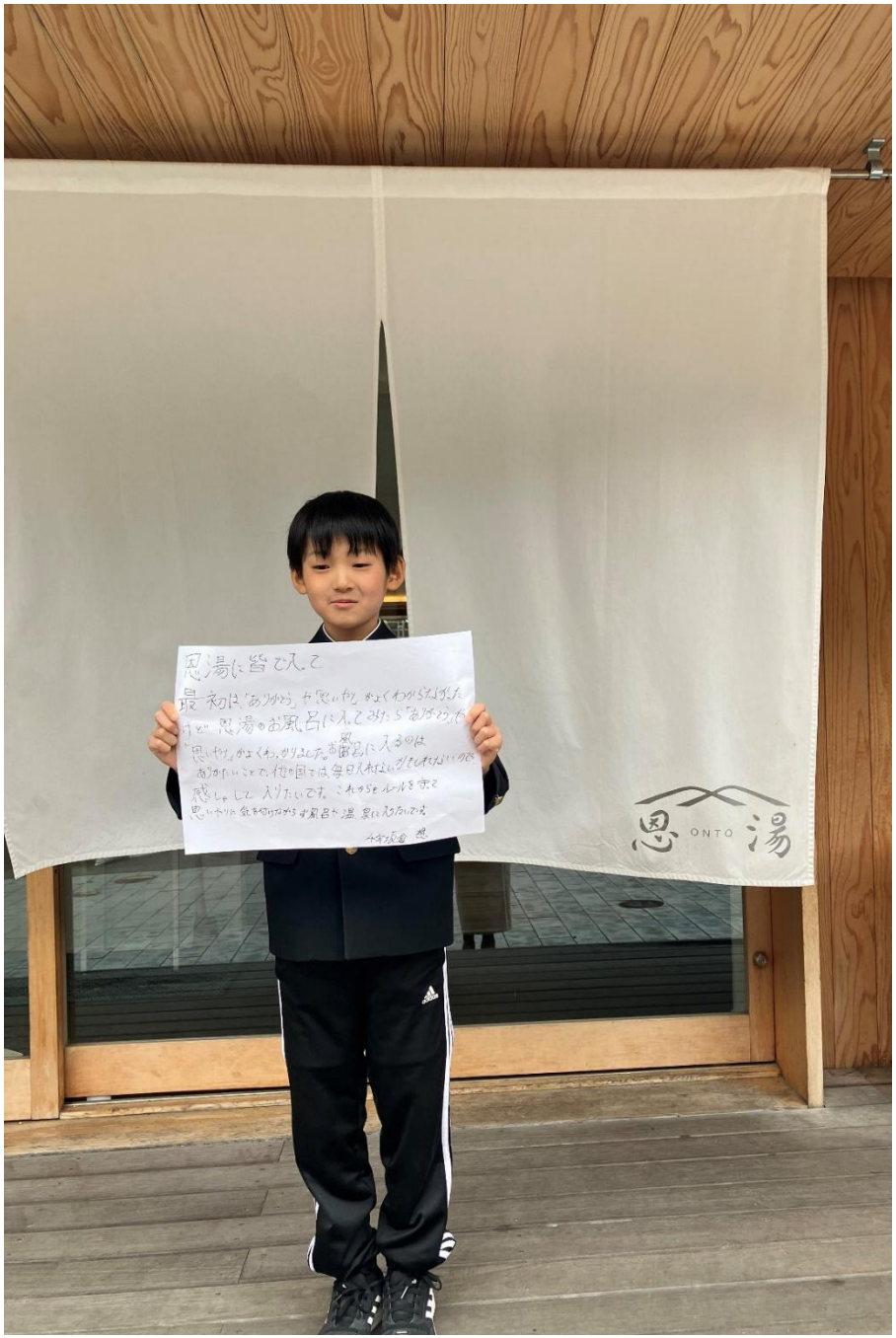
一般社団法人湯道文化振興会に協力いただき、「子ども湯道教室」を恩湯にて実施（向陽小学校３・４年生の総合学習）。
「お風呂に入れるのは当たり前？」「お風呂に入れるのはどんなひと・もののおかげでしょうか？」など、お風呂やお湯、温泉などに関するグループワークを通じ、お風呂は「ありがとう」と「思いやり」の場所だということを学ぶ。
グループワークの後は、実際にお風呂に浸かり、「湯道」を実践。



恩湯を核とした場所学習　こども湯道教室

9月25日　事前学習
大寧寺にて、岩田方丈より「長門湯本温泉との関わり」と「大内氏」についての講義を受けた後、境内を見学

10月11日開催
「世界で毎日お風呂に浸かる国は世界で何ヵ国あるでしょう」「日本で一番古いお風呂があるところはどこでしょう」など、お風呂やお湯、温泉などに関するグループワークを通じ、お風呂は「ありがとう」と「思いやり」の場所だということを学ぶ。
グループワークの後は、実際にお風呂に浸かり、「湯道」を実践。



恩湯に皆で入って

最初は「ありがとう」や「思いやり」がよくわからなかったけど恩湯のお風呂に入ってみたら「ありがとう」や「思いやり」がよくわかりました。

お風呂に入るのはありがたいことで、他の国では毎日入れないかもしれないので感謝して入りたいです。
これからもルールを守って思いやりに気を付けながらお風呂や温泉に入りたいです

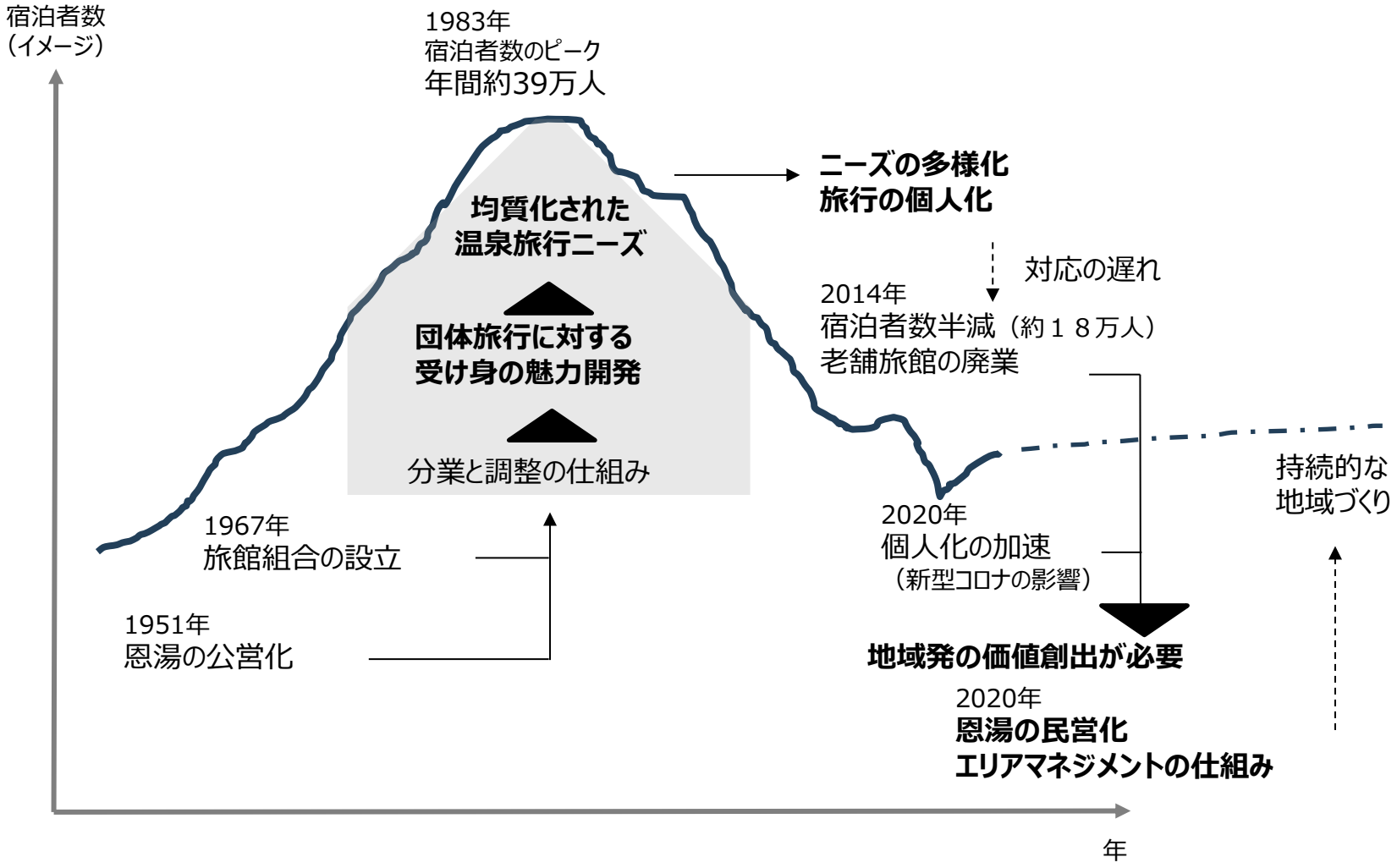
１５０年ぶりに復活

恩湯の産湯を開始

長門市で生まれた新生児にクラフト温泉「恩湯の産湯」を贈呈する取り組みが9月にスタート。

長門市では年間およそ100～120名の新生児が誕生。
（2022年116人、2023年103人、2024年101人）
この取り組みはその門出を「神授の湯」で祝福することで、地域文化の中心に温泉があることを次世代に象徴的に伝えていくもの。

【実施内容】
- 贈呈式開催：9月５日
- 内　　容：クラフト温泉「恩湯の産湯」（100ml）を贈呈
- 配布方法：出生届提出時に引換券を配布し、恩湯受付にて受け渡し
- 費用負担：製品・案内制作は長門湯守株式会社が負担。長門市は窓口での配布を担当

数を負う観光から、地域に根差す価値づくりへ

かつては、団体ツアーやパンフに載せやすいようサービスをそろえ、「商品」として整えることが集客の基本だった。今は情報が個人に届く時代。一人ひとりに響く地域の歴史や文化に根ざした「価値づくり」が、旅をより豊かにする。